

## 人民元の基準値切り下げとアジア通貨への影響

### ポイント1 人民元の基準値切り下げ

8月11日、中国人民銀行（中央銀行）は、人民元の対米ドル為替レートを誘導する際の目安となる基準値を、前日の市場為替レートを参考にして決めることを発表しました。中国の景気減速や輸出減少に対する懸念が強まる中、もともと市場レートが基準値より人民元安水準であったことから、基準値が切り下げられました。人民元安を当局が容認した形となったことから、市場レートもさらに元安に動きました。ただ、12日に中国当局がドル売り為替介入を行なったと見られることや、13日に基準値と市場レートの差が縮小したことから、今後、急激な人民元安は避けられそうです。

### ポイント2 アジア通貨への波及

中国は他のアジア諸国にとって大きな貿易相手であることから、人民元安につられて他のアジア通貨も全般的に米ドルに対して下落しました。金融市場での不安の高まりから、逃避資金による円買いの思惑や、米国の利上げ観測が弱まったことで円相場が安定していたため、結果的にアジア通貨は円に対しても下落しました。

### ポイント3 経済情勢の違いに注目

しかし、人民元の動きが落ちつけば、他のアジア通貨は、各国ごとの経済情勢を反映するようになるでしょう。

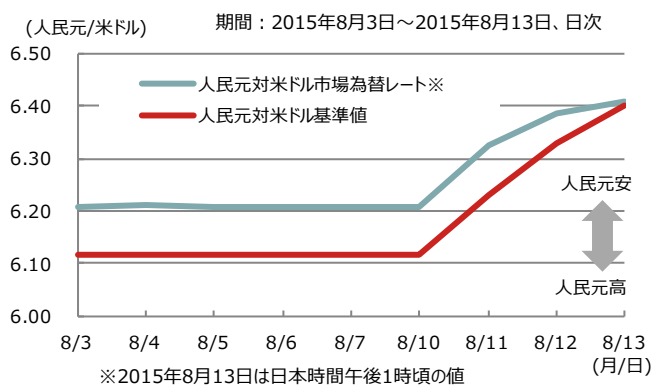
インドでは景気は堅調であり、足元の商品価格の下落は資源輸入国であるインドには有利に働きます。経常収支赤字は2013年から大きく縮小しました。一方、インドネシアでは景気が減速している上、資源国であるため、商品価格の下落はマイナスです。経常収支赤字は、2013年以降、高水準で推移しています。

足元では人民元に連れ安の動きが先行していますが、中期的には、こうした経済情勢の違いがインド・ルピーやインドネシア・ルピアの動きにも現れてくるものと思われます。

**重要イベント** 2015年9月1日 中国製造業PMI(購買担当者景気指数、8月)  
2015年9月8日 中国貿易統計(8月)

重要イベントは現地時間で記載しています。

【図1】人民元対米ドル基準値と市場為替レート

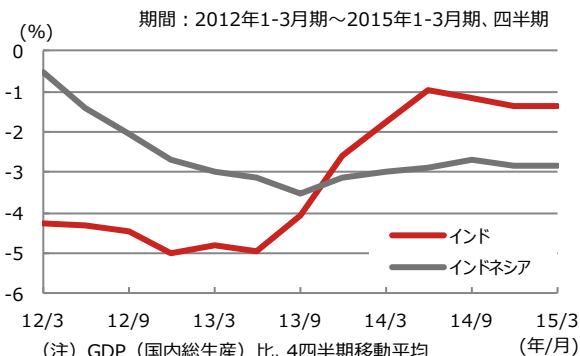


【図2】アジア通貨の対米ドル・対円の騰落率

	対米ドル	対円
人民元	-2.76%	-3.09%
日本円	0.34%	-
韓国ウォン	-2.29%	-2.62%
台湾ドル	-2.16%	-2.49%
シンガポール・ドル	-1.22%	-1.56%
マレーシア・リンギ	-2.26%	-2.59%
タイ・バーツ	-0.58%	-0.92%
インドネシア・ルピア	-1.80%	-2.14%
インド・ルピー	-1.45%	-1.79%

(注) 8月12日と8月10日の比較。

【図3】インド、インドネシアの経常収支



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成